



ワックスを使用しないメンテナンスが可能です。
施設利用者や運営者に加え、環境にも負荷が少ない
理想的な床材です。

初期 メンテナンス

使用前

- 引渡し前に付着した汚れを清掃、洗浄し、乾燥させてください。
※洗浄の際、目の粗いパッドを使用すると表面のコーティングが摩耗する場合があります。

日常 メンテナンス

毎日 予防清掃

- 床材上の土砂が歩行で引きずられることで、床材にキズが入ります。
出入口へのフロアマットの設置により、土砂の持ち込みと拡散を防ぎます。
マットはこまめに除塵、交換してください。

毎日 日常清掃

- ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗浄剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。
- 状況に応じ自動床洗浄機などで洗浄を行ってください。
※洗浄の際、目の粗いパッドを使用すると表面のコーティングが摩耗する場合があります。

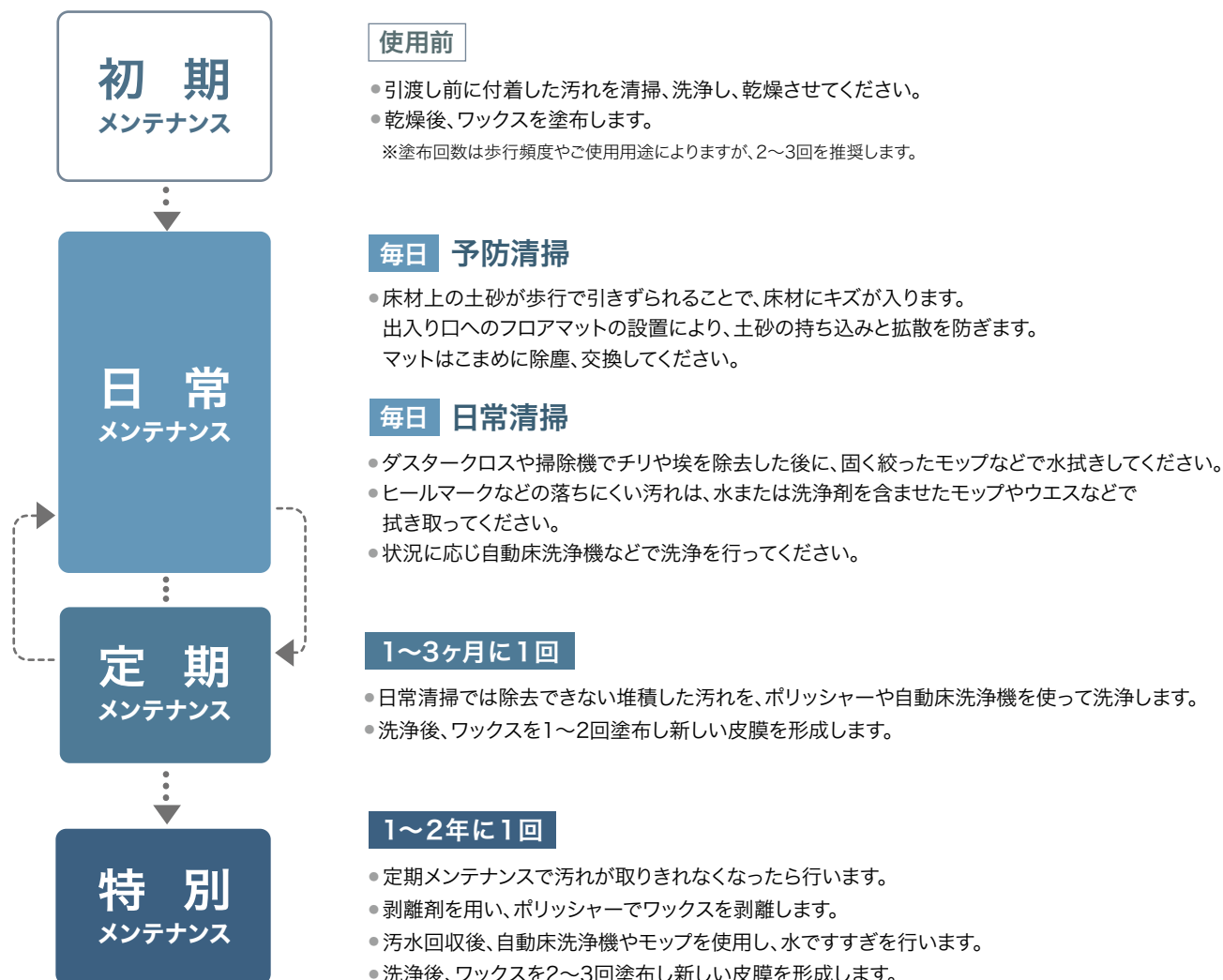
特にご注意ください

タイルの目地から水、洗浄液、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。
接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。
モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
帯電防止床材用ワックスをおすすめします。
ワックスメンテナンスへの切り替え後は一般的なビニル系床材と同じメンテナンス(P.22)を行ってください。

一般的なビニル系床材のメンテナンス

歩行量や汚れの段階に応じた計画的なメンテナンスにより床材の耐用年数を延ばすことができます。

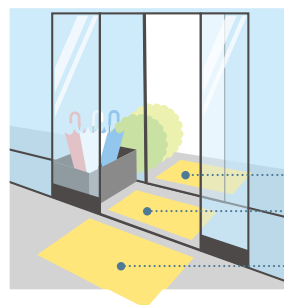


フロアマットについて

予防清掃

施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。

エントランスには以下の**3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮**します。



① まず玄関の外に雨・風耐用型のマットを置き、外からの泥・砂などをふるい落としします。

② 次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。

③ 最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

来訪者が施設内に入るまでに、外からの泥・砂を自然に歩いて落とすには、**約6mの除塵スペースが必要**であると言われています。なるべく広範囲にわたってフロアマットを設置することが、施設内部への汚れの持ち込みを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキューミングと月1回の水洗いをおすすめします。

〈注意事項〉

床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。また洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドは製造元が推奨する使用方法を必ずご確認のうえ、ご使用ください。